



ほほえみ

平成26年
9月号
No.29



災害に強い
まちづくりを目指して
(2ページ参照)

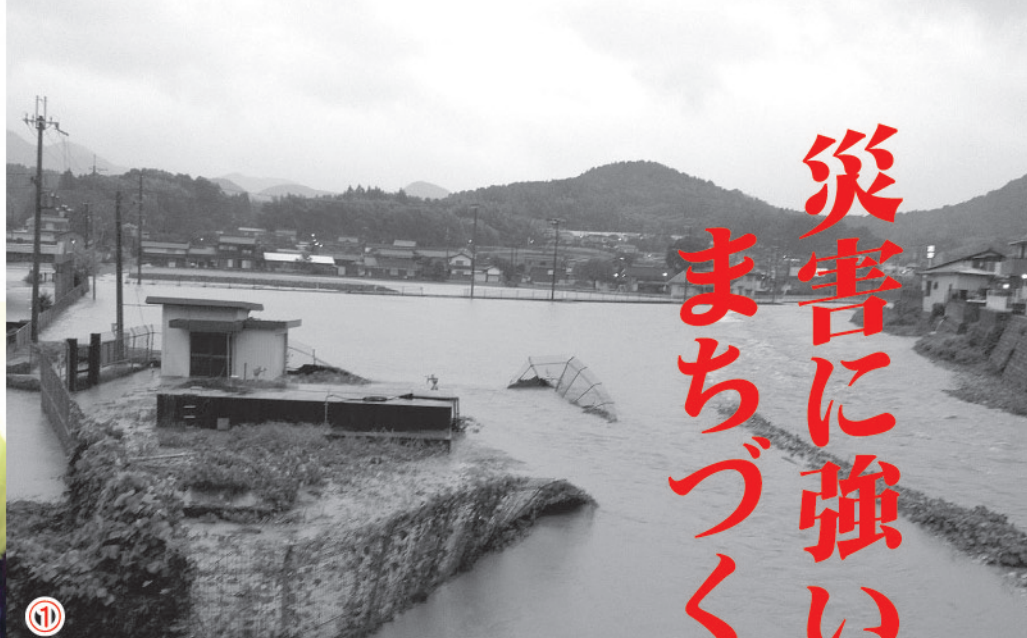
京丹波町長
寺尾 豊爾

京丹波町社会福祉協議会
会長
波瀬 孝澄 様

もくじ

- 災害に強いまちづくりを目指して… 2
- 新役員・新評議員紹介…………… 5
- 平成25年度事業報告・決算報告… 6
- 福祉体験学習…………… 8
- 赤い羽根共同募金のお願い… 9
- 作業所NEWS…………… 10
- ファミリー・サポート・センターよりお知らせ… 11
- 寄付お礼…………… 12
- 福祉まつり開催案内…………… 12

①昨年の台風18号で氾濫する瑞穂保健福祉センター裏の河川。／②福知山豪雨災害での救援ボランティア活動。夏休み中の高校生も参加してくれました。



災害に強い まちづくりを目指して

近年、台風や局地的なゲリラ豪雨により、全国各地で災害が発生し甚大な被害が出ています。このような大規模災害では、ボランティアによる復旧・復興活動が必要不可欠となっています。災害時におけるボランティア活動や災害ボランティアセンターが担う役割、また地域での防災に向けた活動について紹介します。

■福知山市への支援

ボランティア派遣と 災害ボランティア センター支援

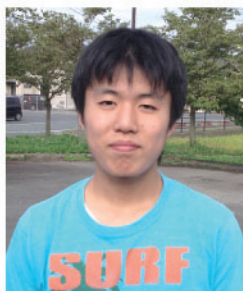
8月16日の深夜から17日の未明にかけて発生した「福知山豪雨」災害では、2400戸を超える家屋が浸水し、多くの被害が発生しました。

京丹波町社協では、福知山市の災害救援活動を支援するボランティアを募集し、8月21日、22日、27日の3日間、延べ44名の方に参加いただきました。参加いただいた方々には、床下

に溜まった泥のかき出しや家財道具の洗浄、家の前に出された災害廃棄物の運搬など、復旧活動に活躍いただきました。

また、今回の救援ボランティアには、京丹波町行政からもたくさんの方を派遣いただき、さらに町営バスやトラックと、公用車も提供していただくなど、多大な支援をいただきました。

一方、京丹波町社協ではその他に、現地で開設された「福知山市災害ボランティアセンター」の運営支援に、6名の職員を派遣し、センターでのボランティア調整や活動先へのボランティア送迎などを行いました。



藤田 諒太さん 大学生 下山区黒瀬

3日間ボランティア活動に参加して

今回参加しようと思ったきっかけは、実は、親に「行ってみたら」と言われ、(自分でも)何かできることがあればとの思いで参加しました。

床下の泥だし作業など、しんどい活動もありましたが、活動先の方から「ありがとう」という言葉をかけていただき、逆にこちらもやる気が出ました。

Fujita Ryota



③町行政からは多くの職員派遣と公用車の提供を協力いただきました。

■京丹波町での備え

町行政との連携と 災害ボランティア センターの設置

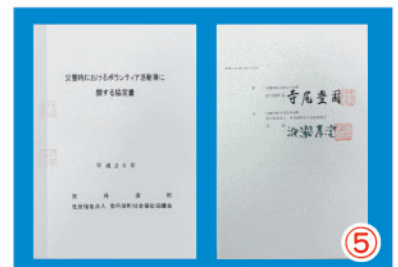
京丹波町社協では、大規模災害時にボランティアによる復旧活動がスムーズに行えるよう、「災害時におけるボランティア活動等に関する協定」を町行政と締結しました。

この協定は、昨年9月の18号台風において町内でも被害が発生し、その復旧活動への課題が浮き彫りとなったことから町行政と社協が検討を重ね、緊急時に被災者のニーズ（要望）の収集や支援するボランティアが効率よく活動ができるよう、災害ボランティアセンターの設置と運営方法について整備したものです。その他にも災害情報の共有、また日頃からの災害時に備えたセンター機能の充実を図るため、ボランティア団体や地域住民、消防署等との連携・協力を確認しました。

締結後、寺尾町長からは「一



人ひとりの生活にスポットをあて、柔軟かつ速やかな復旧を行うにはボランティアによる支援活動が必要不可欠である。災害ボランティアセンターの役割に期待します。」との言葉をいただき、波瀬社協会長は「今回、災害時におけるボランティア活動等に関する協定を締結できたことで、的確な支援が行えるようになった。住民の安心・安全が守れるよう、今後も町行政と連携し努力していきたい」と決意を述べました。



④協定書にサインする寺尾豊爾町長（左）と波瀬孝澄社協会長／⑤災害時におけるボランティア活動等に関する協定書

■災害ボランティアセンターの役割

被災者とボランティアを「つなぐ」

災害が発生したとき、救援活動や復旧事業を行政が担うなかで、災害復旧におけるボランティアの活動は大きな力となっており、必要不可欠な存在となってきています。

そのような状況をふまえ、災害ボランティアセンターは、災害時に人々の「被災された方々を支援したい」という思いをまとめ、被災者支援のためのボランティア活動として、効率的・効果的に実施するこ

とを目的に設置するもので、社会福祉協議会がその運営にあたります。

⑥福知山市三段池公園に設置された災害ボランティアセンター／⑦⑧災害ボランティアセンターが調整することで多くのボランティアが効率的に支援活動を行うことができる。





防災に向けた 意識づくり

災害時の助け合いは 平常時からの 地域のつながりが大切

8月30日、山村開発センターみずほにおいて、京丹波町災害ボランティアセンターの講座を開催しました。

この講座では、災害ボランティアセンターの活動や災害時における地域での取り組みについて理解し、防災意識の向上や日頃からの地域づくりについて考えました。

基調講演として、南丹市社会福祉協議会事務局次長 榎原克幸氏から、昨年の18号台風での被害の状況や災害ボランティアセンター（以下、災害ボラセン）の運営について講演いただきました。



榎原氏は「被害を受けていてもボランティアの受け入れを遠慮される方があった。そんな時、地域の中で『大丈夫、こんな時は、助けてもらいや』と声をかけていただき、ボランティアが入れることができた」と、地域の中で活動を受入れる力（えんりょく 援力）があるか無いかで復興のスピードに差が出ると話されました。

その後のパネルディスカッションでは、園部町横田区いしかわよしひろの石川善博氏（当時区長）と松本健氏（防災委員長）

にも加わっていた。石川氏からは当初ボランティアが来てくれるとは思っておらず、「ボランティアを派遣すると連絡が入ったときはボランティアへの昼食やお茶の準備を心配した。しかし、全て各自が持参しスナップや一輪車まで持ってきていた。ボランティアが来てくれるようになり、私たちは活動先への案内役になれた」と、受け入れることで初めてボランティア活動のことを理解できたと話されました。

榎原氏からは「まだまだ災害ボラセンのことを知らない方は多い。先にも述べたが、地域の方と一緒に活動先へ入ることで受け入れもスムーズになった。これは、日頃から地域でのつながりが重要ということであり、つながりの輪がたくさんある地域が災害に強いまちづくりとなる」と述べられました。

⑨南丹市協 榎原克幸氏
⑩石川善博氏
⑪松本健氏
（右）局長
（左）民生委
区長
（右）市民行政
（左）町民の方
約100名に
参加
いただきました。



災害ボランティアセンター 運営支援ボランティア養成講座 開催のお知らせ

と き 平成26年10月11日(土) 午後1時30分～4時00分
ところ 和知ふれあいセンター 研修室

災害ボランティアセンターを運営するには、被災者に最も近い立場にある地域の皆さんの協力が欠かせません。

京丹波町社会福祉協議会では「災害ボランティアセンター運営支援ボランティア養成講座」を受講いただき、賛同された方に登録をお願いしたいと考えております。詳しい内容については再度お知らせいたします。

平成26年度 社協理事・評議員 新体制のご紹介

◇ 理 事 (敬称略・順不同)

氏 名	選出区分
◎波瀬 孝澄	学識経験者
○谷垣 勇	学識経験者
○正田 恭丈	学識経験者
石田 美恵	民生児童委員協議会
田中 強	民生児童委員協議会
竹内 繁夫	民生児童委員協議会
渡邊 昌嗣	区長会
水嶋 正治	区長会
四方 敏一	区長会
岡本 勇	老人クラブ連合会
山下 典子	女性の会
一谷 静夫	福祉団体・機関
江本 正昭	福祉事業団体
田畑美さ子	ボランティア代表
岩田 恵一	町議会
下伊豆かおり	町行政

◎会長 ○副会長

◇ 監 事

氏 名	選出区分
小畑 圭一	学識経験者
榎本 藤雄	学識経験者

◇ 評 議 員 (敬称略・順不同)

氏 名	選出区分	氏 名	選出区分
小林 信夫	中畑区	的場 三好	粟野区
山村 利於	中村区	前田 和成	質志区
谷 俊明	新水戸区	大西 弘二	質美下村区
湊 敏	須知区	井爪 仁司	西河内区
須知 要	上野区	山本 正	篠原区
田端 長浩	蒲生区	野間 徹也	升谷区
森 實	森区	和田 一男	坂原区
山本 忠明	塩田谷区	石原 政則	広瀬区
中安 博	富田区	山森 優	出野区
上田 隆司	豊田区	山本 和之	民児協
野口 正利	上豊田区	阪内 敏明	民児協
小森 義一	実勢区	春田 貢	民児協
林 登志男	下山区	谷 峰男	町老連
吉川 文則	グリーンハイツ	森 ひろみ	女性の会
伊藤 嘉信	中台区	坂本 博	身障福祉会
折竹 博	和田区	白樫 壽子	ボランティア代表
西田 勉	下大久保区	船山 永二	福祉事業団体
軽尾 勇	東又区		

平成25年度 事業・決算報告

「この町で生まれて良かった この町に住んで良かった」 と思っただけのよう。」

京丹波町社会福祉協議会では、5月28日（水）評議員会を開催し、平成25年度事業報告ならびに資金収支決算の承認をいただきました。

25年度は、住民のご理解とご協力のなか、高齢者・障害者・児童とあらゆる分野における支援事業の展開、さらには直接サービスの供給体として介護保険事業所を運営し、介護保険サービスの提供を行い、安心のまちづくりに向けた様々な事業を展開しました。

高齢者支援事業



外出支援や毎日給食等の利用が増加傾向にあり、介護保険サービスという“枠”だけではない高齢者の生活を支援する仕組みの必要性が高まっていると感じました。

福祉サービス利用 援助事業



認知症や物忘れ、また障害があって福祉サービスを利用するのに一人では不安な方などを対象に、様々な手続きや金銭管理を行う事業で、24年度と比較して4件増加し利用者が17名となりました。

ファミリー・サポート・ センター



子育てを地域で相互に援助する取組みとして利用が増えている。また、25年度より「預かり保育ルーム」を実施し、ファミリー・サポート・センターの理解や提供会員の活動の場として取組みました。

福祉教育・体験学習



これまで和知地域で実施していた「社会福祉体験学習事業」を25年度から町全域に広め、中学生・高校生を対象に“相手の立場に立って物事を考え、行動できる人”の育成を目指し取組みました。

介護保険サービス



介護保険サービスの事業のさらなる充実を図るなかで、通所介護事業（デイサービス）においては、25年度の後半から祝祭日も営業することとし、より利用者の希望に応じた運営を行うことができました。

ボランティア振興



旧町ごとにあったボランティア・バンク運営委員会を統合し、「京丹波町ボランティア・バンク運営委員会」として福祉まつりへの共催や各ボランティアサークルの連携などを強化しました。

その他にも…

○障害者共同作業所の運営

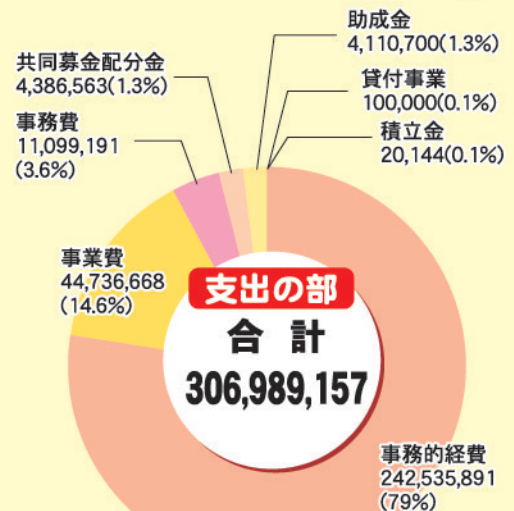
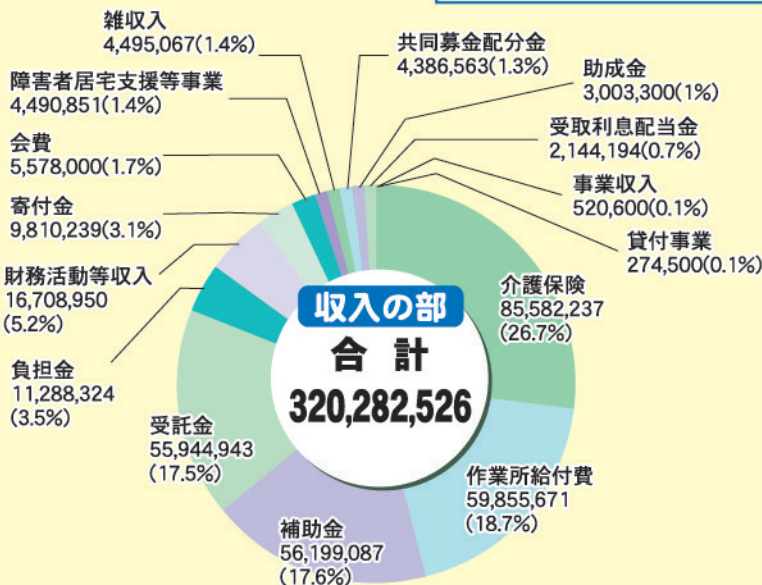
障害のある方に、働く喜びや楽しみながら参加できる活動を提供するために共同作業所を運営し、25年度末で45名の方に利用いただいています。

○災害支援活動

台風18号での豪雨災害により、京丹波町内で被害のあった要援護高齢者を中心に支援に取り組みました。

また、近隣の社協が運営する災害ボランティアセンターへ職員を派遣し、現地でのボランティア調整やセンター運営の支援を行いました。

平成25年度 京丹波町社会福祉協議会 決算



♡♡♡ 社会福祉 体験学習 ♡♡♡

今年も町内の福祉事業所のご理解・ご協力を得て、中・高校生を対象に「社会福祉体験学習」を実施しました。

初めての参加、昨年の経験を踏まえての参加とそれぞれですが、自主的な意思での参加を基本とし、高齢者や子どもたちとのふれあいを通して、命の尊さや思いやり、優しさ、人としての本当の強さを培うとともに福祉施設で働く職員の仕事を体験することにより、将来の夢を具体的に想像できることをねらいとしています。

参加した生徒は緊張しながらも、まっすぐに取り組む姿勢、また、それに応えていただいている福祉施設の職員の皆様の姿勢にふれ、今後もこの事業を大切にしていきたいと思っています。

昨年行かせてもらった時、今までにないほど疲れたけど最終日に園児のみんなが「明日来るん？」と、私に聞いてくれた時、今までにないほど嬉しくて、「絶対絶対来年も来よう！！」と決意しました。あれから一年経ちました。今年もぜひ行かせてもらえれば嬉しいと思います。

(参加動機より)

「共に生きる力」を育む機会として…



ふれあい…

寄り添い…



平成25年 京丹波町の募金額

赤い羽根共同募金

3,140,711円

戸別募金	3,010,184円	イベント募金	43,800円
街頭募金	14,865円	窓口・職域	71,862円

歳末たすけあい募金

2,054,404円

募金総額 2,051,404円 | 前年度未交付配分金 3,000円

合計 5,195,115円

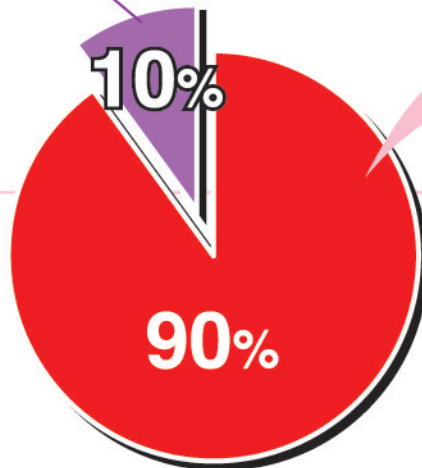
赤い羽根 共同募金

あなたの募金は、あなたの町へ
今年もはじまります

10月1日～12月31日
ご協力よろしくお願ひします

京都府全体の
福祉事業のために

(府下の施設・団体等に配分)



京丹波



福祉まつりの開催



福祉教育として世代間交流



広報ほほえみの発行



防災・災害対策事業



老人クラブ事業支援

赤い羽根共同募金

10月1日(水)～12月31日(水) www.akaihane.or.jp



夏の作業所!!!



共同作業所 NEWS



夏の陽気に誘われるこの時期、作業所では外での作業も頑張りました。
もったいない屋みずほさんで畑の草引きをし、須知水辺公園では花火大会に合わせ、草刈り草集め作業もしました。暑い中でしたが水分を取りながら和気あいあいと行い、綺麗になった公園を見て、「頑張ったね!」と話しました。
また、多くの保護者のボランティアさんにも手伝って頂き、ありがとうございました。

京丹波町共同作業所では…

障がいを持つ方々が地域の一員として自分らしい生活がおくれるよう、就労訓練や生活能力向上のための援助を行っています。

◆問い合わせ先◆

丹波本所 ☎82-2015
瑞穂支所 ☎88-5200
和知支所 ☎84-5005



作業所瑞穂支所では、新しい仲間の歓迎会でバーベキューをしました。肉や野菜をたくさん食べ、普段の作業とはまた違った一面を見ながら楽しく過ごし、交流を深めました。

京丹波町ファミリー・サポート・センターから

◆ 預かり会員講習会 ◆ (平成26年6月5日・10日開催)



子どもの人権講座



両方会員さん2名、預かり会員さん1名の受講。同室内に託児ルーム設置。一緒に過ごしています。



子どもの遊び講座



救急救命

感想

- ・ 2日間の講習の中でファミサポの預り会員になるには様々なことを学ぶのだなと改めて感じました。
- ・ 自宅で預ることでは、活動内容によっては難しいこともあると思いました。何も物がない状態ではないのですから…。
- ・ 参考になる手遊びや作品など教えていただいて良かったです。
- ・ 昔からの歌などいいこともわかりました。
- ・ 困った時に相談できるところが町内にたくさんあるのだなと改めて知りました。
- ・ 救命救急の大切さがよくわかりました。継続して受講したいです

26年度第2回講習会は12月上旬に予定しています。

◆ 預かり保育ルームについて ◆

月に1～2回の予定で実施しています。



10月の開催予定は

開催日	開催場所
①10月20日(月)	瑞穂保健福祉センター
②10月29日(水)	健康管理センター

※詳しくは案内チラシをご覧ください。

善意のぞご寄付

ありがとうございます！

みなさまから寄せられた善意は、社会福祉事業に大切に使用させていただきます。

（平成二十六年六月一日～八月三十一日まで）

数字で見る 京丹波の福祉



平成26年9月1日現在 ※()内は前号(H26.3.31)との比較

	丹波	瑞穂	和知	町全体	
人口	7,745人 (-51)	4,612人 (-17)	3,316人 (-9)	15,673人 (-77)	
65歳以上人口	2,569人 (+15)	1,809人 (+4)	1,457人 (-8)	5,835人 (+11)	
高齢化率	33.2% (+0.4)	39.2% (+0.2)	43.9% (-0.2)	37.2% (+0.2)	
ボランティア登録者数	0~14歳	13 (+13)	0 (±0)	0 (±0)	13 (+13)
	15~64歳	103 (+14)	73 (+25)	59 (±0)	235 (+39)
	65歳以上	176 (+8)	101 (+12)	141 (-1)	418 (+19)
	合計	292 (+35)	174 (+37)	200 (-1)	666 (+71)

第3回 京丹波町社会福祉協議会

予告

福祉まつりのお知らせ

今年『防災』をテーマに講演やブース展示を予定。地域の皆さんとボランティアグループで盛り上がる子どもから大人まで楽しめるイベントです。ぜひ、みなさんお誘い合わせの上ご来場下さい。

日程 平成26年11月9日(日) 10:00~15:00
場所 竹野小学校周辺 (主会場: 竹野小体育館)

講演会『防災は自助・互助・協働のまちづくり』

～力をつける・たすけあう・ともにつくる～

「おはよう朝日です」「おはようコールABC」でおなじみの
まさき あきら
気象予報士・防災士

正木 明さん



テレビ・ラジオで気象予報士として活躍されていますが、防災士という資格もいかして、気象と災害についての知識を深めておられます。正木さんと京丹波町の防災について一緒に考えましょう。

※当日のスケジュールについては、詳細が決まりしだい再度お知らせします。